

# 民医連 全国青年ジャンボリーin岐阜

岐阜JBキャラクター「結ちゃん」



## みみはらグループから13人が参加します



参加者によるカンパ袋作り

民医連の青年ジャンボリー（以下JB）とは、「ひとりぼっちの青年をこころなす」をモットーに、青年職員同士で学習・交流する活動です。全国各地の法人・事業所単位から県連や全国規模で、さまざまな企画・活動を行っており、「全国青年JB」は2年に1度、約1000人規模で開催されています。企画も参加も民医連の青年職員。班行動を中心にフィールドワークや交流会を通して仲間たちと一緒に学び語の合います。

38回目の開催となる今年は、10月27日～29日に岐阜で開催され、みみはらグループからは同仁会と泉州メディカルの13人の若手職員が参加します。

JB実行委員会では全国JBの開催に向けて、6月から毎月学習企画を開催していますが、9月は「災害時！そのときどうする?」のテーマで、災害が起きたとき医療者としてまず行すべきことは何か、について学びました。災害発生時の基本的な動きから注意点、被災後、みみはらグループに求められる課題など、耳原総合病院・品質管理部の中田さんからわかりやすく講演していただきました。

参加した青年職員からは「ちょうど事業所（歯科）でも災害対策委員会を立ち上げたところなのでとても参考になった」「お薬手帳を持ち歩いてもらうようにするなど、

JBの開催に向けて、6月から毎月学習企画を開催していま

が、9月は「災害時！そのときどうする?」のテーマで、災害が起きたとき医療者としてまず行すべきことは何

か、について学びました。災害発生時の基本的な動きから注意点、被災後、みみはらグループに求められる課題など、耳原総合病院・品質管理部の中田さんからわかりやすく講演していただきました。

毎月学習企画を開催していま

が、9月は「災害時！そのときどうする?」のテーマで、災害が起きたとき医療者としてまず行すべきことは何

薬局としても、できることを考えていかなければならないと思った」などの感想がありました。

# 仕事はたいへんだけど 看護師ってカッコイイ



## 高校生1日 看護師体験

毎年春と夏に、高校生を対象に看護師体験を開催しています。将来、看護師になることを決意している人、迷っている人と、さまざまな進路の後押しができればと思います。そして、このご縁で同仁会の看護師になってくれることを願って、各現場の看護師と看護奨学生とで運営しています。

今年の夏は6回開催し、28高校から162人を受け入れました。まずは白衣に着替えて、病院や看護師について説明を受けました。その後、脈拍や血圧測定などのバイタルサインの体験をします。病院見学では、病棟だけでなく手術室や救急外来などにも入ります。さらに各グループに分か

れて病棟に行き、約1時間の体験をします。看護師への動機は「親が看護師」「自分の入院体験」「ドラマを観て」が多く、時に「お金が稼げるから」と書かれていることも。今回の体験で、患者さん

から「ありがとう」と言ってもらえ、なりたい気持ちが強くなった高校生もいました。看護師を間近に見て、「患者さん一人ひとりとお話をしている、その人に対する対応をされていて医師の補助をしているだけでないかわかった」「怖いイメージを持っていたが優

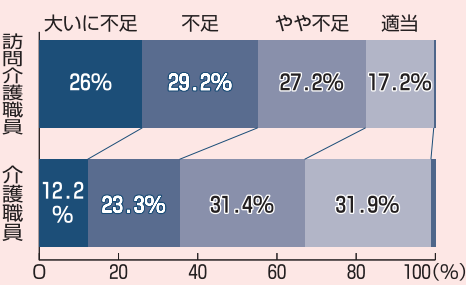


（看護対策室 担当 小谷 朋）



初任者研修 開校式

### 介護サービスにおける従業員の過不足状況



出典：「介護労働実態調査」(介護労働安定センター)2019年07月16日更新

## 急がれる介護ヘルパーの確保と養成

### 介護職員初任者研修のとりくみ

「介護職員初任者研修」耳原グループで開催中  
介護の仕事は大きく分けると、掃除や洗濯・料理などの「生活援助」と、利用者さんの身体に触れて食事・入浴・排せつなどの日常生活を支援する「身体介護」の2種類があります。これは、訪問介護でも、老人ホームなどの施設介護でも同様です。このうち、利用者さんの身体に触れる「身体介護」をするためには、必ず介護の資格が必要です。かつてはホームヘルパー1級、2級、3級や介護職員基礎研修がありましたが、現在は制度変更により「介護職員初任者研修」が入門的な資格として位置づけられています。みみはらグループでは数年前から独自で「介護職員初任者研修」を行なっています。今年は主に泉州看護専門学校を会場に、週1回、9月～12月の期間で開催しています。研修を修了した方が無事にヘルパーの資格を取得し、介護現場で力を発揮していただくことを期待しています。

（NPO法人 結いの会ともつす 事務局長 大坪笑子）

加齢、老化による心身機能の変化には、個人差が大きいことが特徴です。誰にでも「若い」は訪れます。そのとき、日々の生活を継続していくための支援を行う「ヘルパー」の存在は、欠かせないものとなります。その一方で介護ヘルパー不足が深刻化していることが、大きな問題になっていきます。経産省は、2035年には約79万人の介護人材不足が生じる」と公表しました。さらに介護労働安定センターが、66%の介護施設で人手不足が深刻な問題になっているというアンケート結果（平成29年度介護労働実態調査）を出しました。厚労省の資料でも、訪問介護員で90%が不足と回答しています。

### シリーズ 現場からの視点

その52

1947年から1949年生まれの「団塊の世代」が75歳以上になる2025年ごろには、国民の4人に1人が後期高齢者となる、超高齢社会が到来すると予測されています。堺市の今年8月の高齢化率は全人口の28%（23万人以上）で、そのうち100歳以上は368人、介護認定を受けている方は5万人を超えています。

### 深刻なヘルパー不足

加齢、老化による心身機能の変化には、個人差が大きいことが特徴です。